

次世代リーダーを育成する ―食の体験を活かしたウェルビーイング向上プログラム―

日 時：令和7年10月15日（水）・16日（木）

場 所：福井県小浜市全域（農村エリア、漁村エリア、市街地）

【福井県小浜市と食のまちづくり】

福井県の南西部、京都の真北に位置する小浜市は、人口約2万8千人の小さなまちです。目の前には、美しい大規模リアス海岸「若狭湾」が広がり、古代より豊富な海産物や塩を朝廷に献上した御食国（みけつくに）の歴史があります。また、その後の時代も鯖街道を通じて「若狭もの」と評される海産物を京都へ運び、日本の文化を支えてきました。

現在も豊かな食材とともに、さまざまな郷土料理や行事食、魚の発酵食品を中心に優れた加工技術が継承されており、食に欠かせない「箸」についても、伝統的な研ぎ出し技法を用いた若狭塗箸を中心に、塗箸生産量は全国トップシェアを占めるまちです。

21世紀の幕開けを前に、地方分権の時代を迎え、特色あるまちづくりが求められる中、小浜市は「もともと持っているものを活かしたまちづくり」にこだわり、御食国や鯖街道の誇れる歴史に裏付けされた食資源に着目し、2000年に「食のまちづくり」をはじめました。

翌年（2001年）には、日本で初めての食をテーマにした条例「小浜市食のまちづくり条例」を制定し、食を核として、産業や観光の振興、環境保全、食の安全安心の確保、福祉および健康づくり、食育の推進など、総合的な食の取組みをめざし、それを進めるにあたっての市民や事業者、行政の役割を明確にしました。さらに、2003年には、拠点施設「御食国若狭おばま食文化館」（以下、食文化館）も開館しました。

「食のまちづくり」では、「まちづくりは人づくり」との考えから、特に食育を重要視しており、「人は命を受けた瞬間から老いていくまで生涯を通じて食に育まれる」との考えから独自に生み出した「生涯食育」の概念と、小浜で生まれ育つ子ども全てが食を学び体験できる環境、いわゆる「義務食育」体制を整備し、「キッズ・キッチン」や「校区内型地場産学校給食」など多くの特徴ある食育事業を創造し、市民の暮らしに定着させています。

そして、このような特色ある食育事業は、これまでにNHKをはじめとした数多くのテレビ特番放映、全国的な賞の受賞、ミラノ万博への出展など、国内外をリードしてきました。さらに、最近では、食育とウェルビーイングの関係性にも着目し、それらのデータ収集にも努めています。



【小浜市は、今、何を始めるのか】

20年以上の時と実績を重ねた小浜市の「食のまちづくり」において、食環境のあり方が、人のウェルビーイングと密接なつながりがあるだろうということが、わかってきました。

そこで、このような小浜市の食環境を最大限に活かした人材育成プログラムとして、「食の体験を活かしたウェルビーイング向上プログラム」を行うこととしました。

これは、魅力ある小浜市の農業や漁業の視察や体験、および校区内型地場産学校給食の試食や調理体験といった食育事業に触れるとともに、そのような非日常の刺激を自身の成長につなげるワークショップ「内省対話プログラム」を織り交ぜた1泊2日の短期集中人材育成プログラムです。

「食体験の力」を最大限に活用するというのが特徴ですが、参加者は食関連産業に携わっておられる方とは限りません。むしろ、まったく別分野の方にこそお勧めします。

そして、今回のワークショップ「内省対話プログラム」には、現在、多くの企業や官公庁の人材育成研修で注目されている組織「スローイノベーション(株)」が企画するオリジナルプログラムを用意しています。

このような、非日常の場所に身を置き「多様な食体験の力」を活用した人材育成プログラムは企業からも関心が高く、昨年度、社会実験的に実施したところ、多くの社員の方々が参加してくださいました。

一般的な旅では決して経験できない時間の過ごし方、出会いなどを通じて、参加者個々のウェルビーイング向上につながるプログラムを用意してお待ちしております。

実施日：令和7年10月15日（水）～16日（木）
場 所：小浜市全域（別紙のとおり）

定 員：20名

おおよそ30代から40代の次世代リーダー世代の男女を想定

参加費：ご自身の拠点から集合場所である敦賀駅までの交通費＋2万円（宿泊費や体験料、食事代等）

敦賀駅から小浜市内への移動および小浜市内での移動、プログラム全体経費は、小浜市が負担

その他：まずは、お問い合わせください。

【お問合せ先】

御食国若狭おばま食文化館

（小浜市御食国ブランド戦略課）

福井県小浜市川崎3丁目4番

0770-64-6258

0770-53-1000

syoku-machi@city.obama.lg.jp

小浜市経営企画部 経営企画部

御食国ブランド戦略課

中田 典子

